

# 1. 宮城県震災復興計画（H23.10.18議決）～ 宮城・東北・日本の絆・再生からさらなる発展へ ～

## 1 策定の趣旨

今後10年間における復興の道筋を示すため、「宮城県震災復興計画」を策定。

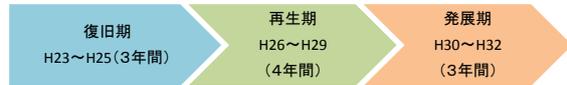
従来とは異なる新たな制度設計や手法を取り入れることが不可欠であり、「提案型」の計画。

## 2 基本理念

- 1 災害に強く安心して暮らせるまちづくり
- 2 壊滅的な被害からの復興モデルの構築
- 3 県民一人ひとりが復興の主体・総力を結集した復興
- 4 現代社会の課題を解決する先進的な地域づくり
- 5 「復旧」ととどまらない抜本的な「再構築」

## 3 基本的考え方

■ 計画期間：10年間（目標：平成32年度）



宮城の復興

### ■ 復興の主体

- 県民一人ひとりが復興の主体。
- 多様な活動主体が、「絆(人と人との結びつき)」を核に復興に向けて取り組む。
- 行政は、様々な主体による復興への活動をサポートする体制を構築。



### ■ 対象地域

県内全域を計画の対象。特に、沿岸被災市町へ重点的に取り組む。

### ■ 進行管理

PDCAサイクルのマネジメント手法により、事業の達成状況等について評価し、その結果を具体的な復興の取組に反映。また、社会情勢の変化などに対応できるように、必要に応じ計画について見直しを行っていく。

## 復興のポイント

- ① 災害に強いまちづくり宮城モデルの構築
- ② 水産県みやぎの復興
- ③ **先進的な農林業の構築**
- ④ ものづくり産業の早期復興による「富県宮城の実現」
- ⑤ 多様な魅力を持つみやぎの観光の再生
- ⑥ 地域を包括する保健・医療・福祉の再構築
- ⑦ 再生可能なエネルギーを活用したエコタウン形成
- ⑧ 災害に強い県土・国土づくりの推進
- ⑨ 未来を担う人材の育成
- ⑩ 復興を支える財源・制度・組織の構築

### ③ 先進的な農林業の構築

#### ■ 具体的な取組

木材産業の早期再建と活力ある林業の再生

新たな時代の農業・農村モデルの構築

緑地・公園化等のバッファゾーン(緩衝地帯)の設定



民間投資を活用したアグリビジネスの復興支援